

黒石いづみ研究室

住所：東京都渋谷区渋谷4-4 黒石研究室

TEL: 080-3503-4155

mail: kuroishi-labo@gmail.com

Blog : <http://kurolabo.exblog.jp/>

ご意見・ご感想はこちらまで。

黒石いづみ研究室では、自然農法による栽培実験や、

その他の農業技術の開発、地域活性化のための企画開発などを主な活動としています。

ひとこと

第一回の旧蚕糸試験場での企画まで残り1ヶ月をきりました。

残り少ない時間を大切に過ごし、本番を迎えることを願っています。

かねてから企画を支えて下さっている皆様、今後もどうぞよろしくお願い致します。



黒石ラボ

2008年に設立された青山学院大学総合文化政策学部の一授業

であるラボアトリエ実習の一つ。現在は1名の教授と8名の学生が在籍している。主に山形の新庄を舞台に、それぞれが持つたテーマについて考えながら実地的な活動をしている。

編集・デザイン

朝岡 大貴 大友 綾香

加藤 寛正 佐々木 捷

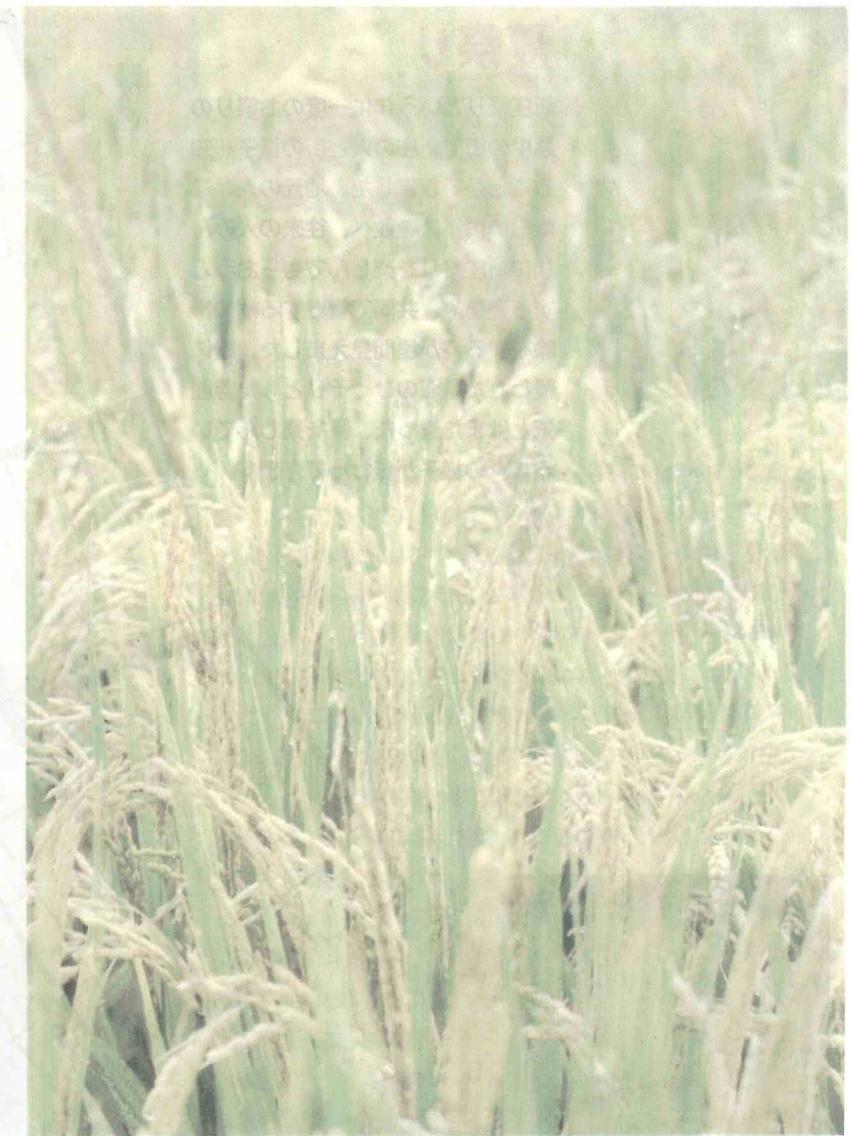
永田 由香莉 宮崎 豊

湯田 真子

い
ち
に
・
さ
ん
し

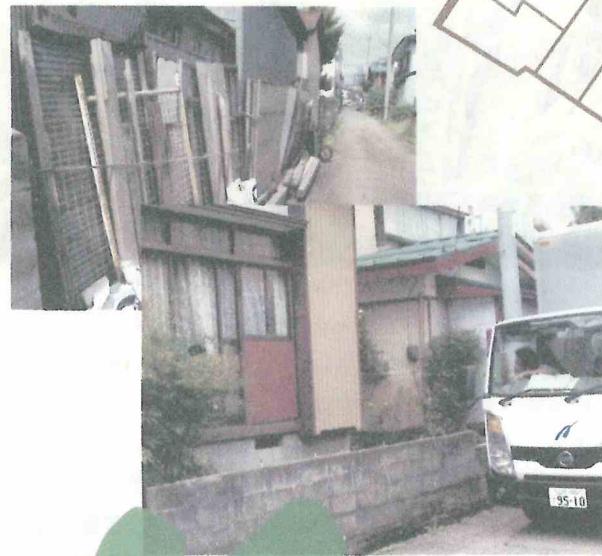
Take Free

vol. 2



夏祭り

新庄祭りという年に一度のお祭りの最中の街で新庄の人と街の様子を知ることができました。地元の人が道路沿いにイスを並べ、往来の人みんなに新庄祭りを楽しんでもらおうとする姿勢や、共同で管理する構の掃除をする姿が垣間見えました。雪に覆われた新庄のひっそりとした雰囲気とはまた違った、夏を楽しんでいる人々の様子が伝わってきます。



雪の痕跡

細く小さな水路を追うように歩いていくと、壁に残る雪の跡、駐車場の隅にある低い植え込み、そこかしこにある小さな空き地に植えられているナスやトマトといった夏野菜が目に入ってきた。雪の無い時期にも確かに残る雪の痕跡から、冬の雪の多い新庄の様子が自分なりに想像出来るような気がしました。「屋根の雪はここに落とすのだろう」とか「ここは膝上まで雪に埋まる場所だろう」といった風景が目に浮かび、ついさっき通った街や道の印象が異なったものに見えてきて、新庄という街の面白さに気づきました。



路地のスケールの違いから

うかがえる「通り」と「生活空間」

新庄市大町のある路地を大・中・小と分けて、それぞれの違いと東京と新庄の路地の使われ方の違いを考えました。その際に見えてきた新庄の路地の役割や生活空間が印象的でした。新庄の渉外としての役割を担う「大」通り。新庄の人々の生活空間が道ににじみ出ている「中」通り。そして小通りには、植物や車、壁のパッチワークなど個人の生活空間の自由で個的な区切りを見ることができます。東京のような閉鎖された空間の通りと違い、新庄の通りに広がる生活空間や「家と家・家と道」の障壁の低さ、道と家での談笑をしているような新庄の姿は、街のオープンな雰囲気を感じさせました。それは、大都市に無くなっている人と人とのコミュニティーの形成の様子に役立っているように感じました。新庄の街並みの美しさ、暖かさはそういった通りや人々からにじみ出ているように思えます。

ふれあい@山形

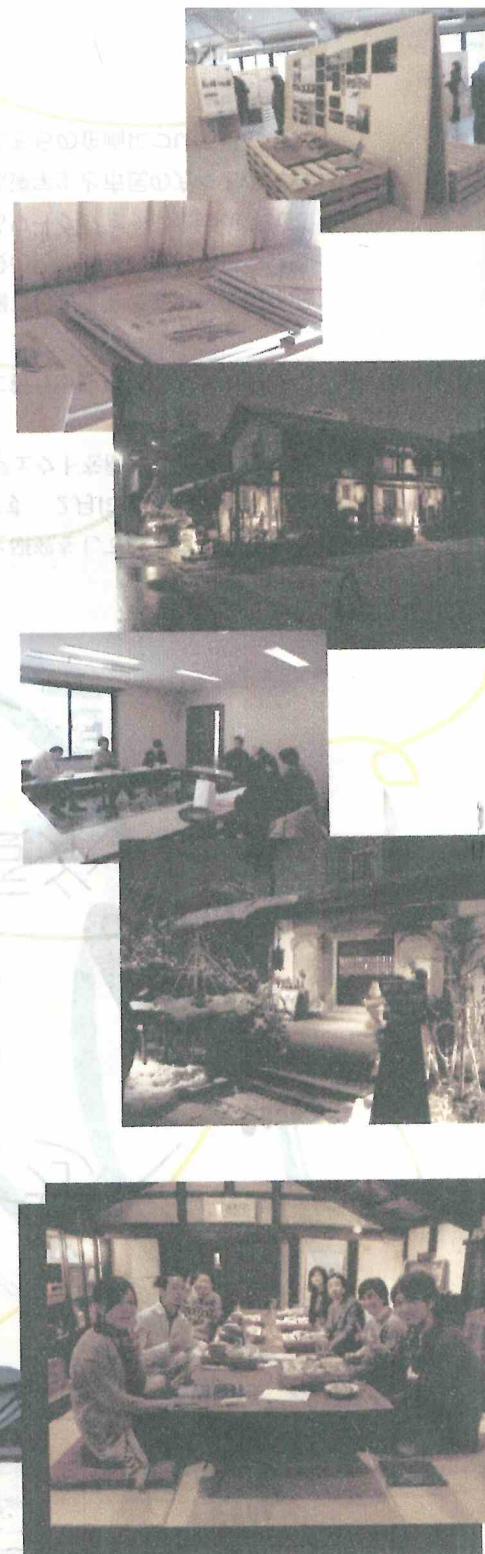
合宿のまとめ

2010年2月11、12日に4回目の山形、新庄合宿に行きました。今回参加したのは先生の他にラボ長である加藤と新メンバーである佐々木の2人で、少し寂しい合宿になりましたが、とても充実した2日間を過ごす事が出来ました。

11日には東北芸術工科大学の山畠先生の案内で、同大学の卒展「結 YUI / KETSU / MUSUBI」に行きました。「結」というコンセプトもさることながら、どの学科の展示内容もとてもハイレベルで、同じ大学生としてたくさんの刺激を受けました。その後、蔵プロジェクトの方々と、彼らの最初の活動の成果である蔵「オビハチ」にて会談と会食を行い、それぞれの活動の紹介をしました。

12日には、旧蚕糸試験場でまゆの郷の方々とバイオマス推進室室長の佐藤さんと打ち合わせを行いました。ここで、5月の企画の時にはまゆの郷の方から昼食に出す芋煮汁の材料を提供していただくことになりました。

その後は、ネットワーク農縁の方々と雪の里情報館の井上館長、市議会議員の小嶋富弥さんと打ち合わせを行いました。今月の企画に全面的に協力いただくことや、掃除の後に民話の会を行う寮についても検討を行いました。



旧蚕糸を掃除

5月2日(日)

9:00~



まゆの郷 敷地内

協力：東北芸術工科大学
蔵プロジェクト
新庄市
まゆの郷
ネットワーク農縁
雪の里情報館
NPO 法人 AMP

主催：青山学院大学
黒石ラボ研究室
kuroishi-labo@gmail.com

Contents

1 ラボの近況とこれから

2 新庄を歩く

5 ふれあい@山形

6 旧蚕糸で掃除

ラボの近況とこれから

私たち黒石ラボは、一昨年の末から4回に及ぶ現地調査と研究をして参りました。私たちは現在、5月に行うイベントに向けて準備を進めています。2月には（新規加入メンバーと共に）東北芸術工科大学の山畑先生による蔵プロジェクトを訪問し、黒石ラボの活動拠点である旧蚕糸試験場へと再び赴きました。

地元の人々のご協力を頂きながら、5月だけでなく8月に行う予定のイベントも視野にいれ着実に一步歩進んでいます。

5月と8月の2回とも、山形県新庄市にある旧蚕糸試験場で行う予定です。具体的な内容としては、5月には同施設の掃除を実施して、その施設の持つ価値を改めて見つけ直したいと思っております。また、8月には約4日間に渡るワークショップ企画を考えております。今後の旧蚕糸試験場の活用の提案を行う他、私達学生と市民の方々との交流の機会を設け、より有意義な企画になればと考えます。こちらの企画については、今後さらに検討していくたいと思います。

新庄を歩く

新庄考現学

～水の都とその魅力～

街全体が新庄祭りでぎわう 2009年8月24日に、私たち黒石ラボの学生6人で新庄駅周辺のフィールド調査を行いました。日々の生活に紛れて見えなくなってしまった都市の姿を再発見し、新庄ならではの特徴を見つけました。

考現学とは…

今和次郎が始めた、現代の社会現象を場所・時間を定めて組織的に調査・研究し、世相や風俗を分析・解説しようとする学問。考古学をもじってつくられた。



特に新庄は水路の多い「水の都」であることを強く実感することになりました。街中に水路が張り巡らされ、そこには山から流れ出した綺麗な水が流れています。そのため、あらゆるところに大小様々な橋が架けられています。目に見える形で水の流れを感じることができ、また、興味深かったのはほんの1メートル程度の橋と呼べるのかも分からぬ程小さな橋に名前が付けられていた事でした。

こんなにも豊かな水に囲まれた街は、日本でも少なくなってきたているのではないかでしょうか。



「こうこうはし」